

備前丸の櫓は何処へ

解体されたれた姫路城のゆくえ



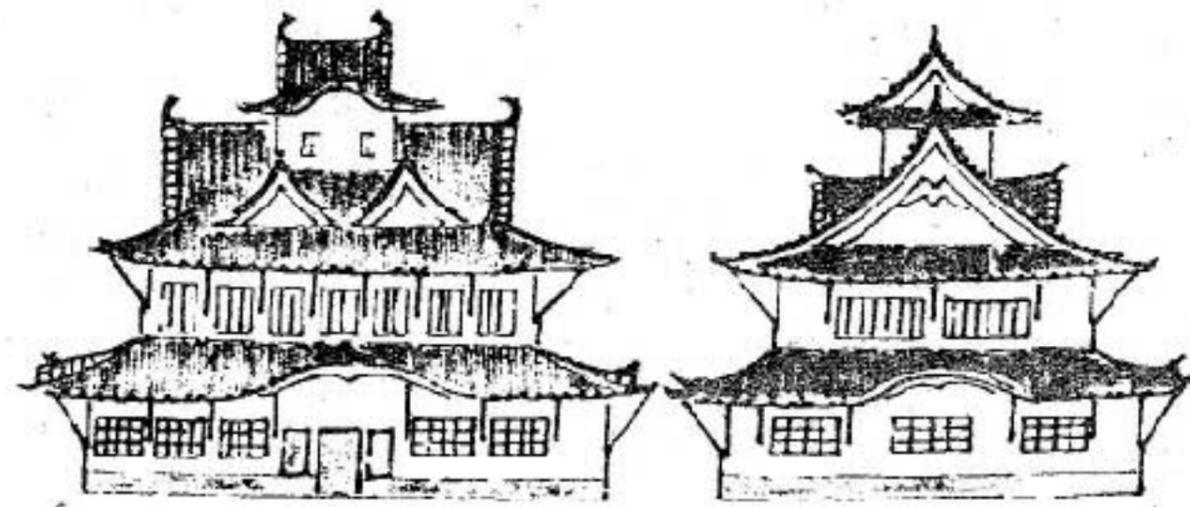
明治維新後、城の存廢が決まると日本各地で廢城となった城郭が破却されました。解体撤去に伴って、そうした旧城施設が入札によって払い下げられることになりました。姫路城でも一説には、23円50銭で払い下げられようとしていたと言われていました。落札した神戸清一郎は、解体するにも金がかかりすぎるので、その場所で焼き払って鉄物だけでも拾って売却しようと考えたというのです。この話の真偽は別にしても、無用の長物となった城郭がいまや金物くらいしか価値が無くなっているということは姫路城に限らず、どこかの城郭でも共通していた話だったことでしょう。

ところで、姫路城は幸運にもその後の存城と決まり残されることになりました。それでも陸軍が駐屯するエリアについてはすでに旧城施設は徹底的に撤去されていました。本城や向屋敷といった中核施設は三の丸空間を埋めていましたから、撤去された施設は決して少なくありません。

不思議なのは、それだけの施設が解体撤去されたはずなのに、「姫路城にあったものを移築した」あるいは「譲り受けた」と伝わるものが意外と少ないことです。姫路市内でいえば、上の写真にある八王子神社の高麗門（市内飾東町）くらいです。こうした大きな建物に限らず、かつて御殿を装飾していた物（襖、欄間、把手など）がたくさんあってもおかしくありません。

一体、そうした物はどこでどうしているのでしょうか。何か情報をお持ちの方は、是非ご教示ください。

Remember? 「築城400年」 ③



『城』78号（1973年）の中に神戸市兵庫区北仲町にあった姫路城からの移築されたという建物が紹介されています（上図：根津袈津之「神戸市内にあった姫路城三層閣」）。昭和初期の新聞切抜きを根津氏が紹介した文章で、挿図は筆者が子供の頃に見た記憶をもとに描いたようです。新聞記事では当時姫路城保存工事主任だった藤原義一と神戸高等工業学校野地教授、当時この建物を事務所にして丸善石油の松村社長の談話を紹介していると、その要約を転記しています。それによれば、野地教授は明治10年に姫路城から曳いてきたものとの話を耳にしており、それに対して松村社長は昭和3年から同社の所有となっているが、明石城の一部だったと聞いていると記されています。経緯からすると、野地教授の話の方が信憑性があるように思われます。藤原氏は姫路城工事主任らしく、建築物としての特徴を分析し、「古式邸館殿守にみられる如き」と技術者らしい指摘をしています。上図を見るかぎり、秀吉築造三重天守の復元想像図を彷彿とさせる外観です。根津氏の文章では、この建物が姫路城にあったことは断定できませんが（根津氏はほぼ断定している）、どこかの城郭施設だった可能性は大きいように感じられます。

因に備前丸に三重櫓があったかどうかですが、下左の「播州姫路城図」では備前丸に三重櫓があったとは記されていません。一方、右の「大工源助伴幾蔵図」では備前丸台所大屋根に接して三重櫓（○）が描かれています。もし備前丸の櫓だとしたら、この建物だったのでしょうか。根津氏の文章が、「姫路城からの移築建物はどこかにあるはず」との希望をもたせてくれました。

ただ残念なことに、この三層閣は神戸大空襲で焼失してしまいました。



"Shiro Fumi" No.36 The News of Himeji Center for Research into Castles and Fortifications.